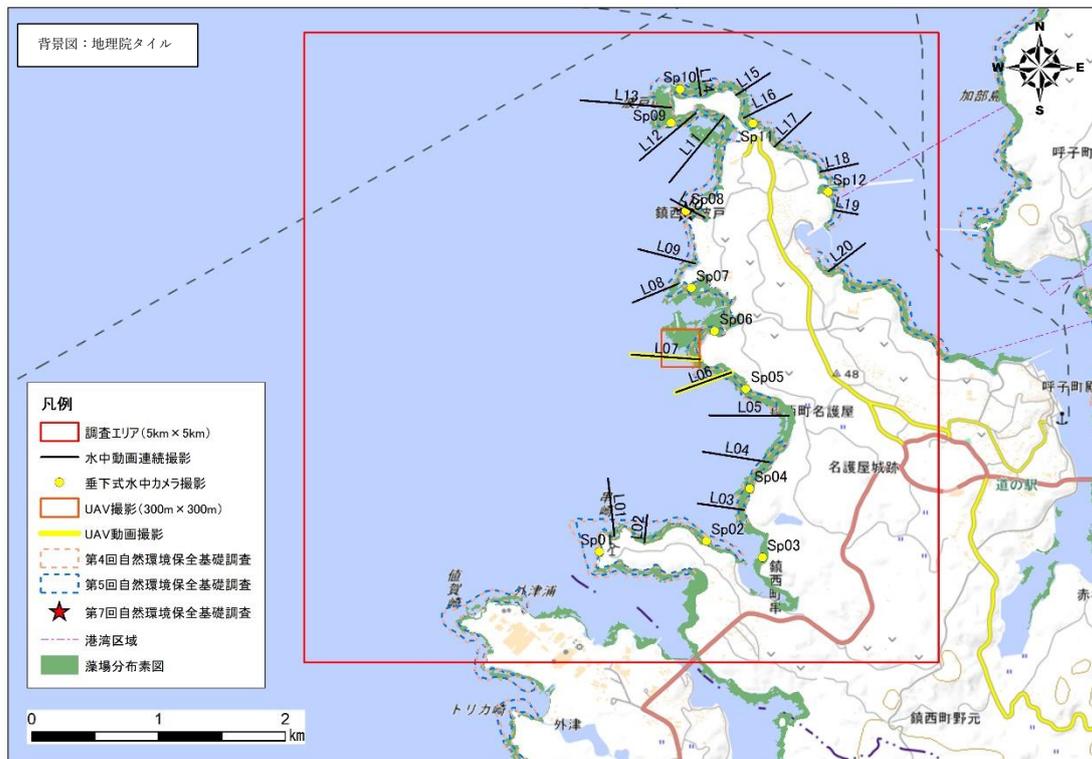


(1) 調査海域名	四国-九州沿岸海区 鎮西町沿岸
(2) 調査海域の所在	佐賀県 鎮西町地先
(3) 調査海域及び調査位置図	

【調査位置図】



(4) 調査位置の詳細 (WGS84)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果（データ）」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン番号	岸側基点		沖側基点		測線長 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	463
2	-	-	-	-	222
3	-	-	-	-	369
4	-	-	-	-	529
5	-	-	-	-	628
6	-	-	-	-	463
7	-	-	-	-	545
8	-	-	-	-	384
9	-	-	-	-	463
10	-	-	-	-	303
11	-	-	-	-	682
12	-	-	-	-	580
13	-	-	-	-	719
14	-	-	-	-	221
15	-	-	-	-	319
16	-	-	-	-	423
17	-	-	-	-	394
18	-	-	-	-	307
19	-	-	-	-	191
20	-	-	-	-	365
測線長 計					8.6km

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影範囲）】

撮影範囲	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日

令和2年11月13日、11月14日（UAV撮影：11月15日）

(6) 調査実施者

株式会社パスコ 雑賀修一（調査責任者）

(7) 調査海域の概要

本海域は、玄界灘に面した東松浦半島北部に位置しており、第4回、第5回自然環境保全基礎調査では、浅場にガラモ場、深場に海中林（アラメ）が確認されており、玄界灘に顕著な藻場構造となっている。

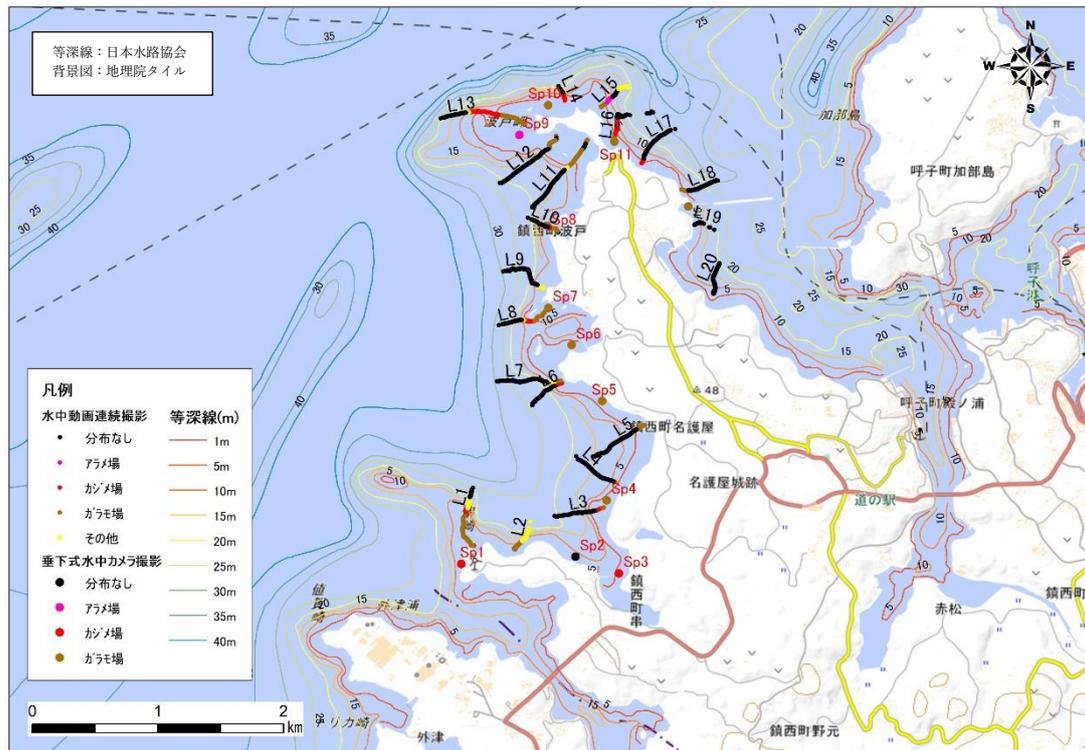
また、本海域を含む壱岐島・唐津湾・福岡湾一帯は生物多様性の観点から重要度の高い海域（沿岸域）に指定されている。

現地調査は、東松浦半島の周囲にみられる藻場を対象に実施した。

五島市富江町沿岸海域での高度100mの年間平均風速は7.0～7.5m/sとなっている（NeoWins（洋上風況マップ）：NEDO）。

(8) 調査結果 ①水中動画連続撮影

【確認結果平面図】



測線 1：串崎周辺の調査測線、水深 D.L-4.3～-26.1m、底質は岸よりの水深 D.L-5m 程度までは主に岩盤、それ以深は巨礫、礫が混在していた。水深 D.L-7m 程度まではホンダワラ類密生で分布しており、カジメ属も疎生から密生で混生していた。それ以深では一部小型藻類が確認された。

測線 2：串崎周辺の調査測線、水深 D.L-5.3～-22.5m、底質は巨礫、礫であるが、水深 D.L-11m 以深は砂が混在していた。水深 D.L-11m 程度まではホンダワラ類、カジメ属が疎生で混生していた。それ以深では、小型藻類が確認された。

測線 3：波戸岬西側の調査測線、水深 D.L-4.4～-22.2m、水深 D.L-7m 前後までは岩盤、巨礫、礫の混在、それ以深は砂であった。岸寄りの礫上でホンダワラ類が点生から疎生、それ以降では岩盤上にカジメ属が疎生で分布していた。

測線 4：波戸岬西側の調査測線、水深 D.L-11.5～-20.8m、底質は主に巨礫、礫、水深 D.L-13m 以深は砂であった。礫上等にホンダワラ類が点生から密生で分布していた。

測線 5：波戸岬西側の調査測線、水深 D.L-1.8～-17.5m、底質は水深 D.L-8m 程度までは巨礫、礫、それ以深は砂であった。礫上等にホンダワラ類が疎生から密生で分布していた。

測線 6 : 波戸岬西側の調査測線、水深 D. L-0.1～-28.6m、底質は主に巨礫、礫、水深 D. L-14m 以深において砂が混在していた。水深 D. L-14m 程度の礫上等にカジメ属が疎生で分布しており、ホンダワラ類も疎生から密生で混生していた。

測線 7 : 波戸岬西側の調査測線、水深 D. L-6.2～-35.2m、底質は主に巨礫、礫、水深 D. L-21m 以深は砂であった。ごく岸よりの水深 D. L-10m 程度まではホンダワラ類が疎生から密生で分布しており、それ以深では小型藻類が確認された。

測線 8 : 波戸岬西側の調査測線、水深 D. L-2.6～-28.9m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。水深 D. L-10m 程度まではホンダワラ類が疎生から濃生で分布しており、一部カジメ属が疎生から密生で混生していた。

測線 9 : 波戸岬西側の調査測線、水深 D. L-9.6～-31.1m、底質は水深 D. L-21m 程度までは岩盤、巨礫、砂の混在であり、それ以深は砂であった。ごく岸よりの水深 D. L-10m 程度までは、アラメ属が疎生で分布しており、それ以深の礫上等では小型藻類が確認された。

測線 10 : 波戸岬西側の調査測線、水深 D. L-4.7～-22.7m、底質は主に巨礫、礫、砂の混在であった。礫上等の一部にホンダワラ類が点生から疎生で分布しており、カジメ属も点生で混生していた。

測線 11 : 波戸岬西側の調査測線、水深 D. L-0.9～-23.5m、底質は水深 D. L-15m 程度までは岩盤、巨礫、礫が混在し、それ以深は砂であった。岩盤、礫上等にホンダワラ類が点生から密生で分布していた。

測線 12 : 波戸岬西側の調査測線、水深 D. L-0.7～-24.6m、底質は水深 D. L-7m 程度までは巨礫、礫、それ以深は砂であった。礫上等にホンダワラ類が点生から密生で分布しており、一部小型藻類も混生していた。

測線 13 : 波戸岬先端の調査測線、水深 D. L+0.7～-31.0m、底質は岸よりの水深 D. L-3m までは巨礫、礫、それ以深の水深 D. L-8m までは岩盤、それ以降は礫、砂であった。水深 D. L-3m 程度までの礫上にホンダワラ類が疎生から密生で分布し、それ以深の岩盤上にはカジメ属が疎生から密生で分布していた。

測線 14 : 波戸岬先端の調査測線、水深 D. L-1.9～-27.0m、底質は岸寄りが岩盤、巨礫等であり、水深が深くなるにつれて礫、砂となっていた。岸から水深 D. L-17m 程度の岩盤、礫上等にカジメ属が点生から疎生で分布していた。

測線 15：波戸岬先端の調査測線、水深 D. L-1. 4～-17. 6m、底質は水深 D. L-4m 程度まで岩盤、巨礫、それ以深は巨礫、礫、砂が混在していた。水深 D. L-7m 程度まではホンダワラ類が疎生から密生で分布しており、アラム属も疎生で混生していた。それ以深の水深 D. L-17m 程度まではアラム属が点生から密生で分布していた。

測線 16：波戸岬東側の調査測線、水深 D. L-2. 6～-31. 9m、底質は水深 D. L-12m 前後までは巨礫、礫、砂が混在し、それ以深は砂であった。水深 D. L-5m 程度まではホンダワラ類が疎生から密生で分布しており、それ以深の礫上等でカジメ属が点生から疎生で分布していた。

測線 17：波戸岬東側の調査測線、水深 D. L-5. 1～-33. 6m、底質は岸よりの水深 D. L-10m 程度までは巨礫、礫、砂が混在し、それ以深は砂であった。礫上等にカジメ属が点生から疎生で分布していた。

測線 18：波戸岬東側の調査測線、水深 D. L-2. 2～-34. 0m、底質は水深 D. L-11m 程度までは岩盤、巨礫、礫が混在し、それ以深は砂であった。ごく岸よりの水深 D. L-5m 程度までの岩盤上等にホンダワラ類が疎生から密生で分布しており、アラム属も点生から疎生で混生していた。

測線 19：波戸岬東側の調査測線、水深 D. L-5. 9～-22. 7m、底質は主に礫、砂であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 20：波戸岬東側の調査測線、水深 D. L-9. 6～-21. 0m、底質は砂であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。



カジメ属 (地点 14)



アラム属・ホンダワラ類 (地点 18)

(8) 調査結果 ②垂下式水中カメラ撮影

【垂下式水中カメラ撮影 調査結果一覧】

地点番号	水深 (D. Lm)	底質	主要な藻類 (種名・被度)	備考
Sp1	-9.5	岩盤、岩塊・巨礫	ホンダワラ類30%、カジメ属30%	カジメ属との混生藻場
Sp2	-6.6	砂・泥	-	
Sp3	-3.0	岩盤、岩塊・巨礫	カジメ属30%	
Sp4	-1.0	岩盤、岩塊・巨礫	ホンダワラ類10%	
Sp5	-1.3	岩盤	ホンダワラ類60%、アラム属60%	アラム属との混生藻場
Sp6	-0.9	岩塊・巨礫、礫、砂・泥	ホンダワラ類10%、小型藻類10%	小型藻類との混生藻場
Sp7	-2.8	岩盤、岩塊・巨礫	ホンダワラ類(ノキギリモク)80%	
Sp8	-7.8	岩盤、岩塊・巨礫	ホンダワラ類30%、カジメ属30%	カジメ属との混生藻場
Sp9	-10.4	岩塊・巨礫、礫	アラム属10%	
Sp10	-5.0	岩盤、岩塊・巨礫	ホンダワラ類60%、アラム属60%	アラム属との混生藻場
Sp11	-1.5	岩塊・巨礫、礫	ホンダワラ類30%	
Sp12	-1.8	岩塊・巨礫、礫	ホンダワラ類60%、アラム属10%	アラム属との混生藻場



ホンダワラ類 (ノキギリモク) (地点7)

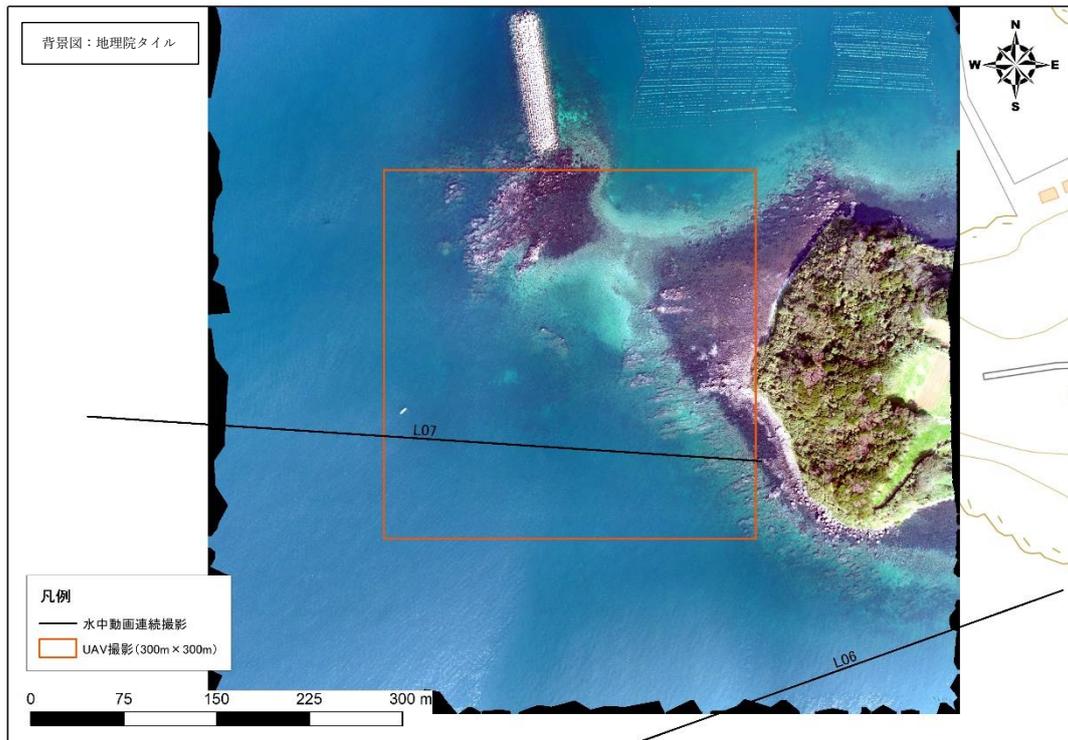


ホンダワラ類とアラム属の混生藻場 (地点10)

(8) 調査結果 ③UAV 撮影

【UAV 撮影結果 簡易オルソ画像】

簡易オルソ画像からは、撮影範囲 (300×300m) 内の底質および藻場の分布状況が確認できる。



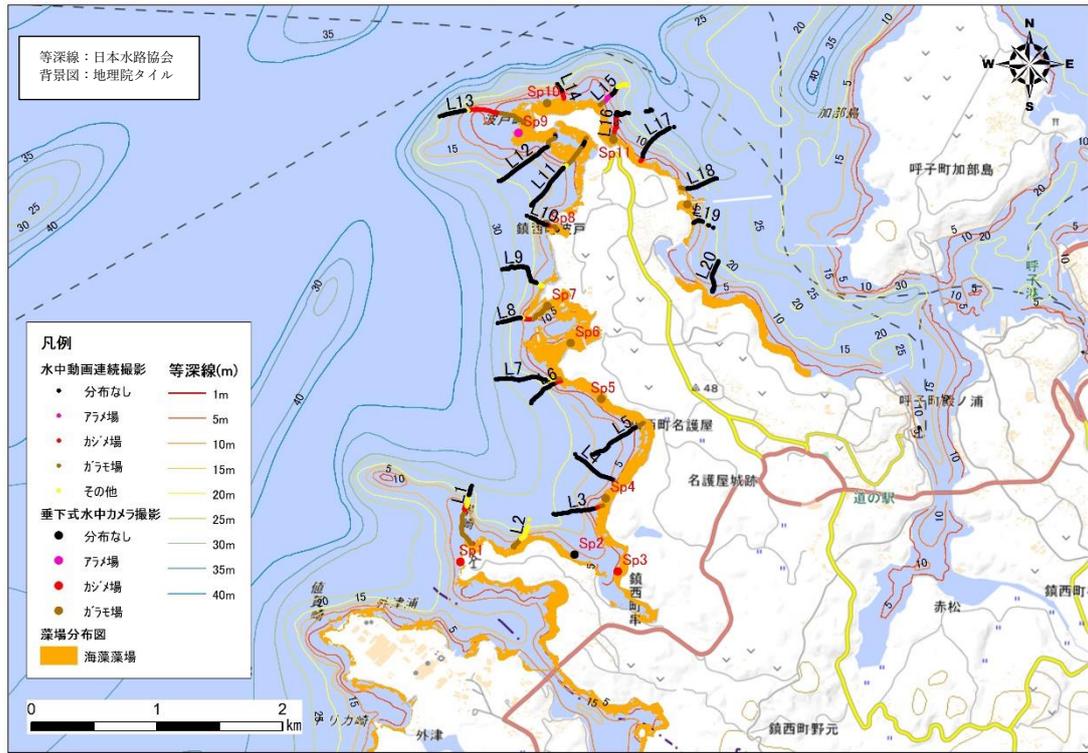
撮影時間	潮位※ ¹	風向・風速※ ²	波高	撮影高度	備考
2020/11/15 11:00~12:00	D. L 2.11m	南東 1.4m/s	0.5m 以下	149m	

※¹ 潮位は、気象庁仮谷検潮所における 11 時時点の潮位表基準面上の値

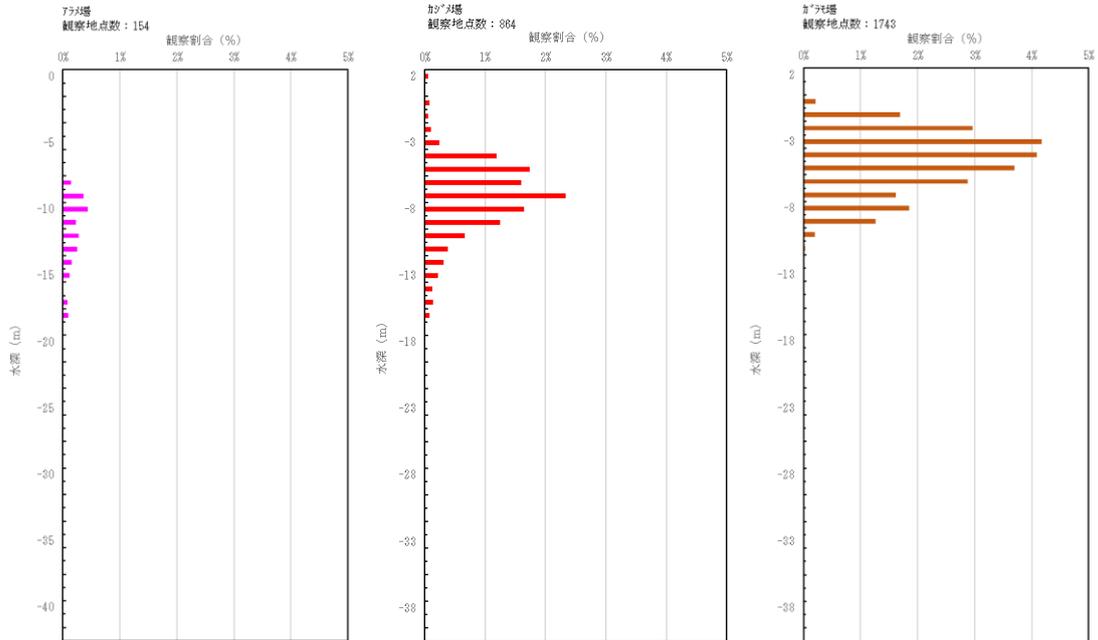
※² 風向・風速は、気象庁唐津観測所における 11 時時点の値

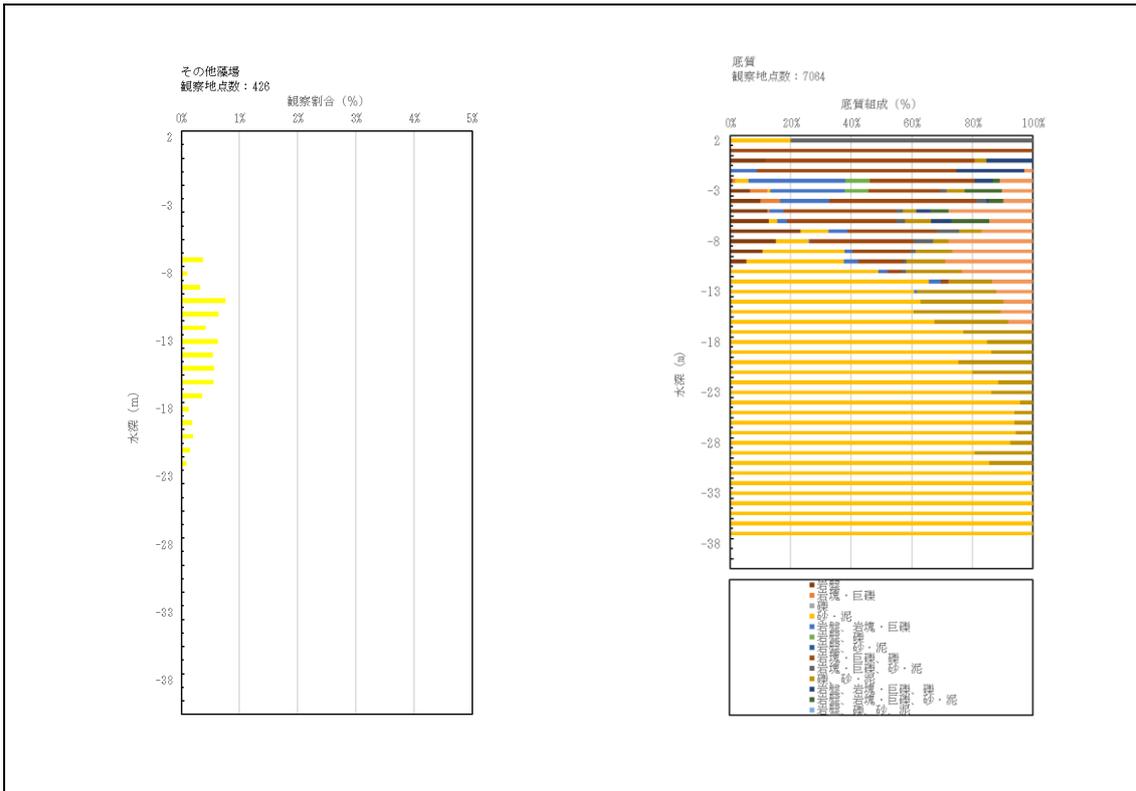
(9) 藻場分布調査結果図

【藻場分布調査結果図】



【藻場タイプ別出現水深頻度図】





(10) まとめ

調査海域は、東松浦半島の周囲、玄界灘に面しており、半島の西岸、東岸を広く含む岩礁性の海岸である。東岸の測線 19、20 を除き、カジメ属、ホンダワラ類の分布が広く確認された。

カジメ属とアラム属が混在してみられ、主にカジメ属は半島の西岸、アラム属は東岸で出現し、水深 D.L-0.1~-17m の間でみられ、水深 D.L-5~-10m 付近で被度が高くなる傾向がみられた。また、分布も広範囲にみられ、20 測線中 13 測線で出現していた。

ホンダワラ類としてノコギリモクなどが、水深 D.L-0~-13m の水深帯でみられ、水深 D.L-5m 付近から岸近くの浅所において密生など被度の高い状況がみられた。

(11) その他特記事項

※ 潮位補正は、気象庁推算潮位の仮谷 (KARIYA) を用いた。